

「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」 2026 年度募集「A・B・C コース（第 1 回）および D コース」の 交流計画の採択について

JST（理事長 橋本 和仁）は、長期的視点に立って世界の優秀な若者を日本に短期招へいし、日本の最先端の科学技術や文化に触れる機会を提供するとともに、我が国の青少年との交流を促進するための「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」を推進しています。

この度、2026 年度 A・B・C コース（第 1 回）および D コースの募集により採択する交流計画を決定しました。

A・B・C コースには、2026 年 2 月 16 日（月）から 4 月 2 日（木）までの募集期間に合計 191 件の申請がありました。また、2024 年度より開始した D コースには、同じ募集期間に合計 19 件の申請がありました。これらの申請について、国際青少年サイエンス交流事業選考委員会（委員長：渡邊 聡 東京大学 大学院工学系研究科 教授）による審議を経て、A・B・C コース 72 件、D コース 5 件の採択を決定しました（別紙 1、別紙 2）。採択した交流計画における日本側機関の内訳は、大学・高等専門学校・高校が 72 校、独立行政法人・国立研究開発法人などが 2 機関となりました（別紙 2）。

以下の「さくらサイエンスプログラム」のウェブサイトには、関連情報や過去の活動報告も掲載していますのでご参照ください。

URL : <https://ssp.jst.go.jp/>

<添付資料>

別紙 1 : 2026 年度 さくらサイエンスプログラム A・B・C コース（第 1 回）および D コース
公募採択結果 交流計画一覧

別紙 2 : 2026 年度 さくらサイエンスプログラム A・B・C コース（第 1 回）および D コース
公募採択結果（地域／コース別人数、機関別 採択件数／人数）

参 考 : 2026 年度 国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）
一般公募プログラム概要

<お問い合わせ>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

金子 恵美（カネコ エミ）

Tel : 03-5214-8997 Fax : 03-5214-8445

E-mail : ssp.press@jst.go.jp

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

合計72件 受入れ機関：54機関（33カ国・地域）

No	受入れ機関名	実施担当者名 ^(注)	参加国・地域	派出し機関	コース ^(注)	交流計画のテーマ ^(注)
1	北見工業大学	ラフンカル アビジット 工学部 機械電気系 准教授	インド	タクール工科大学	A	AIとロボティクスを活用したスマート農業向け人材育成プログラム
2	北海道大学	DIVYAVANI GONDA 大学院保健科学研究院 健康科学分野 助教	インド	インド工科大学ルールキー校 JSS科学技術大学 インド科学教育研究大学バーハンプル校	A	農業および健康科学の研究における持続可能な技術の体験 (Experiencing sustainable technologies in agriculture and health science research)
3	北海道大学	岡田 夏男 大学院工学研究部 環境循環システム部門 助教	エクアドル ペルー	エクアドル中央大学 チリ大学 カトリカ大学	B	スモールスマートマイニングによる低コスト・自律型鉱山開発技術の開発～日本とアンデス諸国（チリ・エクアドル・ペルー）の協業～
4	東北大学	小玉 哲也 大学院医学研究科 教授	南アフリカ共和国	クワズールナタール大学	A	南アフリカにおけるリンパ行性薬物送達 (LDDS) の臨床実証と国際共同研究基盤の高度化
5	福島県立医科大学	遠藤 康裕 保健科学部 理学療法学科 講師	モンゴル	モンゴル国立医科大学	A	災害・地域・バラスポーツを通じた理学療法の社会的役割と国際的共有
6	茨城大学	前田 知貴 原子科学研究教育センター 准教授	インド	インド工科大学マドラス校	B	量子線科学による環境調和型パッケージの技術革新に関する日印共同研究
7	筑波大学	西村 賢直 教理工学系化学工学 准教授	インド	サルダールバラブライ国立工科大学	B	生体関連重要イオン・分子の検出およびイメージングを目的とした新規近赤外ビマン結合型蛍光分子の開発
8	筑波大学	松坂 賢 フロンティア医学学位プログラム 学位プログラムリーダー 教授	インドネシア ベトナム	インドネシア大学 ベトナム国家大学ハノイ校科学大学 ベトナム国家大学ホーチミン市校科学大学 ほか	B	医学サマリーサーチプログラム プラス in 筑波大学2026～最先端技術による疾患メカニズムの解明～
9	筑波大学	津田 聖人 芸術系 助教	ケニア	キシイ大学 ケニア農長類研究所	A	ケニアの学生・若手研究者が学ぶ日本における水田の生物多様性保全と毒ヘビ ^{スネーク} 咬傷対策
10	群馬大学	山田 功 大学院理工学部 教授	ベトナム タイ	ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学 モンクット王工科大学北バンコク校 素日工業大学 ほか	A	東南アジアの学生受入による制御・人工知能人材の育成と国際交流の促進
11	高崎健康福祉大学	下川 哲昭 健康福祉学部 学部長	ベトナム	ホーチミン市医科薬科大学	A	HUMAN+（ヒューマン プラス）人に寄り添う科学技術 ー障がい者自立支援の最前線を探るー
12	千葉大学	辻 耕治 大学院教育学研究部 教授	タイ ベトナム カンボジア ほか	チュラロンコン大学 ベトナム国家大学ハノイ校教育大学 カンボジア王立フノンペン大学 ほか	A	環境分野における日本の科学技術を核にSDGs達成に資する人材育成を目指すグローバル協働ワークショップ
13	電気通信大学	高橋 裕樹 国際教育センター センター長	メキシコ	メキシコ国立工科大学	B	日墨共創によるグローバル社会実装と国際共同研究ー筋電義手のリバースイノベーションの推進を通じた人材育成ー
14	東京海洋大学	佐野 元彦 学術研究部 海洋生物資源学部門 教授	インドネシア フィリピン	ディボネゴロ大学 フィリピン大学ヒサヤ校	C	国際貿易を通じて拡大する魚介類ウイルス病制御に向けた検査技術の研修
15	東京大学	加藤 隆宏 大学院人文社会系研究科 教授	インド	デリー大学	A	「総合知」の新たな実践ー人文社会科学与科学技術をつなぐ日印交流
16	東京大学	竹内 昌治 大学院情報理工学系研究科 教授	インド	インド工科大学ハイデラバード校 インド工科大学マドラス校 インド工科大学デリー校 ほか	B	日印を結ぶ次世代 ICTを担う先端研究
17	東京大学	猪狩 義保 大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構国際教育部門 特任准教授	インド	インド工科大学マドラス校 インド工科大学ハイデラバード校	A	インドの工学・情報技術を担う高度人材のための最新技術体験と交流プログラム
18	東京農工大学	オプライン 悠木子 農学研究部 動物生命科学部門 准教授	ガーナ 南アフリカ共和国	ガーナ大学 スールーランド大学	B	アフリカの水銀汚染と感染症リスクにワンヘルスの視点で挑むー環境・動物・ヒトをつなぐ統合モニタリング体制の構築ー
19	慶應義塾大学	高尾 賢一 理工学部 教授	台湾	国立清華大学	B	未踏分子の創出とグローバルリーダーの育成を目指した化学研究
20	東京工科大学	原 賢二 工学部 応用化学科 教授	ベトナム	カントー大学	B	資源循環に関する国際共同研究の創成を志向した国際交流
21	東京都市大学	桃沢 愛 理工学部 教授	ケニア	ジョモケニヤッタ農工大学	A	材料創成実験による基礎材料科学の理解
22	東京都市大学	京相 雅樹 理工学部 教授	インド	サストラ大学	A	参加者の興味に基づく工学系研究室の見学と印日学生の友好関係醸成を目的とした活動
23	東京理科大学	梅村 和夫 理学研究科 物理学専攻 教授	エジプト	アインシャムス大学	A	水質評価・改善のためのナノバイオ技術国際共同研究の試み
24	横浜国立大学	叶谷 由佳 医学部 看護学科 老年看護学領域 教授	ケニア	マシンデリロ科学技術大学	A	横浜の持続可能な高齢社会を支えるヘルシーエイジング・ケア～見て・感じて・考える交流研修プログラム～
25	横浜国立大学	立川 仁典 大学院生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 教授	タイ	ウボンラーチャターニー大学 タマサート大学 チュラロンコン大学	C	日本ータイ国際研究交流のためのグリーンテクノロジーに資する最先端マルチスケール量子水素シミュレーション研修
26	長岡技術科学大学	大塚 雄市 システム安全系 准教授	インド	インド工科大学マドラス校 インド工科大学バラカッド校	B	トポロジカル格子構造とメタマテリアルとの接合体の力学的特性評価
27	新潟大学	山崎 祥紀 農学部 コメと環境の国際イノベーション共創センター 教授・センター長	ベトナム	カントー大学	B	IoT・ゲノム解析技術を融合した日越共同研究：耐気候変動米の開発とデジタルMRVによる水田メタン削減実証
28	新潟大学	川坂 健人 佐渡自然共生科学センター臨海実験所 特任助教	インド タイ ベトナム ほか	コーチン科学技術大学 モンクット王工科大学ラートクラバン校 ハノイ国立教育大学 ほか	C	トキの舞う島・佐渡の豊かな海をフィールドに海洋環境モニタリング手法と自然再生を学ぶハイブリッド型研修
29	富山大学	伊藤 哲史 学術研究部医学系 教授	台湾	国立台湾大学	B	富山大学と国立台湾大学の神経科学の交流振興：聴覚神経回路の構造と生理機能の関連の解明
30	金沢工業大学	坂本 宗明 バイオ・化学部 環境・応用化学科 教授	インドネシア シンガポール	ムハマディア大学マカッサル校 シンガポールポリテクニク	A	先端科学技術を統合した環境分析装置のプロトタイプングと測定実習
31	福井大学	カンザダ アミル 地域創生推進本部 特命助教	アラブ首長国連邦 パキスタン インド ほか	ドバイ大学 NEO工科大学 国立立法医学大学 ほか	B	北陸観光経済最適化のための分散型ヒューマンデータエンジン (DHDE) の開発：多国籍AIタスクフォースによる社会実装スプリント

No	受け入れ機関名	実施主担当者 ^{※1}	参加国・地域	派出し機関	コース ^{※2}	交流計画のテーマ ^{※3}
32	福井大学	高村 映一郎 学術研究院基盤部門 カーボンニュートラル推進本部 准教授	台湾 インドネシア マレーシア	国立中興大学 ジェネラルスティルマン大学 マレーシアアブラ大学 ほか	A	材料科学が拓く生物資源の可能性：バイオものづくりと先端マテリアル設計の融合体験
33	朝日大学	長瀬 春奈 口腔感染症学講座 歯科薬理学分野 助教	南アフリカ共和国	ウェスタンケープ大学	A	ルイボス成分を用いた経皮吸収型唾液分泌促進モデルの構築：日本-南アフリカ国際共同研究の社会実装に向けて
34	静岡大学	和田 忠浩 工学部 教授	インドネシア	ガジャマダ大学 ウダヤナ大学	A	インドネシア情報通信系学生のための光無線通信の先端技術の学び
35	名古屋工業大学	宮崎 秀俊 大学院工学研究科 准教授	アルジェリア	サイダ高等師範学校	B	情報科学・実験・計算理論の国際知能循環による次世代熱電変換材料の開発基盤構築
36	名古屋大学	佐藤 史人 大学院法学研究科 日本法教育研究センター長	ウズベキスタン モンゴル カンボジア ほか	タシケント国立法科大学 モンゴル国立大学 カンボジア王立法律経済大学 ほか	C	「情報技術の発展がもたらす多様なグローバル化と法」という課題に挑戦する未来の法律家のセミナー
37	京都大学	佐野 紀彰 大学院工学研究科 化学理工学専攻 教授	フィリピン	ミンダナオ大学	B	レアメタル等重要金属回収を目的とする吸着剤の開発能力を有する高度人材の育成
38	立命館大学	塩見 康博 理工学部 環境都市工学科 教授	インド	NWAM工科大学	A	災害大国・日本の防災・減災技術に学ぶ共生と安全の国際共修プログラム～次世代理工系人材の育成と国際連携の強化を目指して～
39	龍谷大学	木村 睦 先端理工学部 教授	インド	SRM大学アーンドラ・ブラデシュ校	A	Discover Japan : Electronics, Informatics, and Robotics
40	大阪大学	藤山 和仁 生物工学国際交流センター 教授	フィリピン インドネシア マレーシア ほか	フィリピン大学ロスバニョス校 ガジャマダ大学 マラヤ大学 ほか	A	日本が牽引するバイオ医薬品生産技術の最前線を実践的に学ぶ国際交流プログラム
41	大阪大学	吉成 信人 大学院理学研究科 化学専攻 教授	マレーシア	マレーシアサイエンス大学 マラヤ大学	A	基礎科学からイノベーションへ：先端化学研究体験による国際人材育成プログラム
42	大阪大学	松橋 靖博 大学院理学研究科 化学専攻 教授	フィリピン	デラサール大学 アテネオデマニラ大学 アダムソン大学	A	日本・フィリピンの科学研究と産学連携の交流の深化
43	大阪公立大学	神川 憲 大学院理学研究科 教授	台湾	国立台湾師範大学	A	機能性新物質の創成に挑戦する分子科学研究に基づいた台湾化学系学部生応援プログラム
44	大阪公立大学	グイエン ツラン 大学院工学研究科 都市系専攻 教授	インドネシア ベトナム	テプトラ大学スラバヤ校 ハノイ工科大学	B	高層下空間および住宅地における視覚環境評価とWell-beingの関係に関する国際比較研究
45	大阪工業大学	柏原 航 工学部 応用化学科 特任講師	台湾	国立台湾科技大学	A	SDGs達成に向けた科学技術の体験学習
46	大阪工業大学	鎌倉 快之 情報科学部 情報知能学科 教授	タイ	タマサート大学	A	画像処理プロジェクト (Image Recognition Programming Challenge)
47	関西学院大学	ビヤニ マニシュ 理工学研究科 教授	インド	インド工科大学インドール校 ビヤニカールズカレッジ	B	インドにおける「Zero TB Initiative」を支援するための結核の迅速な現場検査用RICA検査キットの共同開発
48	鳥根大学	ハマンス ニータラパティ 生物資源科学部 准教授	インド	インド工科大学デリー校	B	ラマンイメージングとデジタルホログラフィーを統合したラベルフリー多モーダル生体試料解析
49	岡山大学	横口 亜由未 学術研究院環境生命自然科学学域 准教授	台湾 ウガンダ	国立台湾大学 マケレレ大学	A	岡山-台湾-ウガンダ 3国間の学部・大学院連携プログラム「海外実践型SDGs環境フィールド学」(持続発展編)
50	岡山大学	吉村 浩司 学術研究院先端研究領域 異分野基礎科学研究所 量子宇宙研究コア 教授	フィリピン	セントラルミンダナオ大学 カラガ州立大学 ミンダナオ州立大学イリガン工科大学 ほか	A	楽しい実験を通して不思議な量子の世界を体験しよう
51	岡山大学	高橋 裕一郎 異分野基礎科学研究所 特任教授	インド	カリカッタ大学	A	光合成の環境適応
52	岡山理科大学	高原 周一 教育推進機構 教授	モンゴル	新モンゴル工科大学 モンゴル国立教育大学	A	モンゴルの教員志望学生のための探究的な理科教員養成プログラムと材料科学研究の体験
53	広島大学	安倍 学 大学院先進理工系科学研究科 教授/化学プログラム長	インド 台湾	インド科学教育研究大学トリバンダム校 国立中央大学 国立中正大学 ほか	A	先端光エネルギー変換科学技術サマースクール
54	香川大学	和田 健司 医学部 教授/副学長	インド	全インド医科大学マングラギリ校 全インド医科大学マドゥライ校 全インド医科大学デーオーガル校 ほか	A	インドにおける臨床工学技術育成と持続可能な医療体制推進に向けた連携強化プログラム
55	香川大学	高木 由美子 教育学部 教授	タイ	チェンマイ大学	A	香川型特別支援教育によって学ぶ共生社会実現のためのアクセシビリティ推進
56	九州工業大学	花田 耕介 大学院情報工学研究科 教授	タイ	カセサート大学	B	植物ゲノミクスとバイオテクノロジーに関する日ASEAN若手研究者交流
57	九州工業大学	福岡 康裕 大学院情報工学研究科 物理情報工学系 教授	インド	アミティ大学ノイダ校 石油エネルギー研究大学 アショカ大学	B	スピントロニクス技術を利用した脳型情報ハードウェアの開発
58	九州大学	米津 幸太郎 大学院工学研究科 准教授	カザフスタン	サトバエフ大学	B	未利用資源からの希土類元素資源の回収に関する国際共同研究
59	九州大学	三木 一 大学院工学研究科 地球資源システム工学部門 准教授	ウズベキスタン	タシケント工科大学 フェルガナ州立工科大学 ブラハ州立工科大学 ほか	A	ウズベキスタンにおける重要資源高度利用・環境修復技術の適用を目指した協働交流
60	北九州市立大学	河野 智謙 国際環境工学部 教授	インドネシア	バランカラヤ大学	B	森林生態系の保全と再生に関する環境・消防科学共同研究活動
61	佐賀大学	永野 幸生 農学部 教授	インド	ジュリヴィシユス教育協会	A	薬用植物ゲノム科学の体験型教育プログラム：実験とバイオインフォマティクスの融合
62	大分大学	播磨 雅史 医学部 医学部長	タイ	マヒドンウィットヤンソーンスクール プリンセスチュラポーン科学高等学校 チェンライ校 プリンセスチュラポーン科学高等学校 チョンブリー校 ほか	A	タイの科学技術の未来を担う「ホープ」との医療を通じた科学技術交流
63	宮崎大学	李 根浩 工学教育研究部 准教授	韓国	ソウル科学技術大校	A	宮崎大学における「生命・環境・エネルギー・食」分野を軸とした地域共生社会の実現に向けた工学研究教育の体験

No	受入れ機関名	実施主担当者 ^{※)}	参加国・地域	派出し機関	コース ^{※)}	交流計画のテーマ ^{※)}
64	仙台高等専門学校	本郷 哲 副校長 (総務担当)	モンゴル	モンゴル科学技術大学付属高専 モンゴル工業技術大学付属高専 新モンゴル学園高専	A	モンゴル高専生を対象としたKOSEN教育サブリ【最先端環境での実験・実習・研究・インターンシップ】体験プログラム
65	宇部工業高等専門学校	中野 陽一 海外事業推進室 教授	ベトナム	商工短期大学 フエ工業短期大学 カオタン技術短期大学	A	日越国際人材育成—AI・IoT協働PBLと日本の先端プロセス産業体験による次世代グローバルエンジニアの育成
66	阿南工業高等専門学校	小西 智也 グローバル推進室 室長/教授	タイ	モンクット王工科大学ラートクラン校高等専門学校 モンクット王工科大学トンブリー校高等専門学校	A	タイ高専生のための「まるごと高専体験」交流プログラム・実験実習・コープ教育・阿波文化を軸とした多角的交流と、将来のキャリア形成に向けた国際教育ネットワークの構築
67	北海道札幌啓成高等学校	小島 啓一 企画総務部 教諭	インド マレーシア	シティモンテッソリースクールゴムティナガルキャンパス2 オールセイントス高等学校	A	AI時代の地球市民になるために—Living Together on Earth: Nature, Technology, and AI for a Sustainable Future—
68	市立札幌開成中等教育学校	塚田 倫恵 教諭	インド ベトナム	デリーパブリックスクールバンガロール東校 チャンドイニア英才高等学校	A	「自然と文化に生きるサイエンス」～グローバル課題に挑む共創プログラム～
69	立命館慶祥中学校・高等学校	福田 貴之 SSH推進機構 機構長	インド	DAV中等教育学校バカラナイ校 DAV女子中等教育学校コハラプラム校 DAV女子中等教育学校モガッパイア校	A	Girls Be Ambitious!～インド・日本の“エンジニアリング”の未来に寄与する国際共同研究～
70	兵庫県立神戸高等学校	向江 達也 総合理学・探究部 総合理学・探究部長	シンガポール	ラッフルズインスティテュション	A	次世代技術の社会実装とグローバル課題解決を担う国際協働プログラム
71	宮崎県立延岡高等学校	津嶋 大樹 教育開発部 教諭	タイ	スアンクラブウィッタヤライランシット校	A	科学の力で海を見つめ、グローバルな視点で地域を活性化できる人材の育成
72	独立行政法人国立科学博物館	保坂 健太郎 植物研究部 研究主幹	カメルーン コートジボワール ベナン	バメンダ大学 ナンギアプログア大学 バラクー大学	B	DNAデータに基づく野生食用きのこ類の国際共同研究の推進

注) 実施主担当者の氏名・所属、コース、交流計画のテーマは原則提案書より引用

【Dコース】

合計5件 日本側交流機関：5機関 (4カ国・地域)

No	日本側交流機関名	実施主担当者 ^{※)}	相手国	相手国側交流機関
1	早稲田大学	岡崎 善朗 人間科学学術院 准教授	インド	インド工科大学カラグブルー校 VIT大学
2	大阪大学	近藤 勝義 接合科学研究所 教授	エジプト ガーナ	アクラ工科大学 中央冶金研究開発研究所
3	九州工業大学	池野 慎也 大学院生命体工学研究科 准教授	エジプト	アインシャムス大学
4	九州大学	森田 康広 大学院農学研究院 准教授	南アフリカ	ソワネ工科大学 リンボボ大学
5	国立研究開発法人産業技術総合研究所	山岸 彩奈 細胞分子工学研究部門 主任研究員	インド	インド工科大学グワハティ校

注) 実施主担当者の氏名・所属、交流計画のテーマは原則提案書より引用

2026年度 さくらサイエンスプログラム A・B・Cコース（第1回）およびDコース 公募採択結果
 （地域／コース別人数、機関別 採択件数／人数）

地域／コース別人数

【A・B・Cコース】 (単位：人)

地域	コース	A(科学技術体験)	B(共同研究活動)	C(科学技術研修)	合計
東南アジア		137	57	30	224
南西アジア		97	55	4	156
東アジア		64	11	6	81
アフリカ		49	24	0	73
中央アジア		8	1	4	13
中東		0	3	0	3
中南米		0	17	0	17
合計		355	168	44	567

【Dコース】 (単位：人)

国・地域	招へい・派遣	招へい	派遣	合計
南西アジア	インド	10	10	20
アフリカ	エジプト	7	6	13
	ガーナ	3	2	5
	南アフリカ	6	4	10
合計		26	*22	48

※同一の派遣者が複数国と交流する場合、交流する各国に計上（実人数は20人）

機関別 採択件数／人数

【A・B・Cコース】

大学

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	北見工業大学	1	8
2	北海道大学	2	16
3	東北大学	1	8
4	福島県立医科大学	1	8
5	茨城大学	1	6
6	筑波大学	3	23
7	群馬大学	1	8
8	高崎健康福祉大学	1	8
9	千葉大学	1	8
10	電気通信大学	1	8
11	東京海洋大学	1	8
12	東京大学	3	24
13	東京農工大学	1	8
14	慶應義塾大学	1	6
15	東京工科大学	1	8
16	東京都立大学	2	16
17	東京理科大学	1	5
18	横浜市立大学	2	20
19	長岡技術科学大学	1	8
20	新潟大学	2	20
21	富山大学	1	5
22	金沢工業大学	1	8
23	福井大学	2	16
24	朝日大学	1	8
25	静岡大学	1	8
26	名古屋工業大学	1	8
27	名古屋大学	1	12
28	京都大学	1	8
29	立命館大学	1	8
30	龍谷大学	1	8
31	大阪大学	3	24
32	大阪公立大学	2	16
33	大阪工業大学	2	16
34	関西学院大学	1	8
35	島根大学	1	8
36	岡山大学	3	24
37	岡山理科大学	1	8
38	広島大学	1	8
39	香川大学	2	14
40	九州工業大学	2	15
41	九州大学	2	9
42	北九州市立大学	1	8
43	佐賀大学	1	8
44	大分大学	1	8
45	宮崎大学	1	8
	計	63	495

高専

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	仙台高等専門学校	1	8
2	宇部工業高等専門学校	1	8
3	阿南工業高等専門学校	1	8
	計	3	24

高校

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	北海道札幌啓成高等学校	1	8
2	市立札幌開成中等教育学校	1	8
3	立命館慶祥中学校・高等学校	1	8
4	兵庫県立神戸高等学校	1	8
5	宮崎県立延岡高等学校	1	8
	計	5	40

法人

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	独立行政法人国立科学博物館	1	8
	計	1	8

A・B・Cコース

採択機関数：54機関

採択件数：72件

【Dコース】

大学

No.	受入れ機関名	件数	人数
1	早稲田大学	1	10
2	大阪大学	1	8
3	九州工業大学	1	8
4	九州大学	1	10
5	国立研究開発法人産業技術総合研究所	1	10
	計	5	46

Dコース

採択機関数：5機関

採択件数：5件

2026年度 国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム） 一般公募プログラム概要

1. 事業の目的

「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」は、産学官の緊密な連携により、諸外国・地域および日本の青少年の招へい・派遣を通じて科学技術分野の国際交流を行い、

- ① 科学技術・イノベーションに貢献し得る優秀な人材の養成・確保
- ② 国際的頭脳循環の促進
- ③ 日本と諸外国・地域の教育研究機関間の継続的連携・協力・交流
- ④ 科学技術外交にも資する日本と諸外国・地域との友好関係の強化

に貢献し、ひいては、日本および世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与することを目的とします。

2. 対象とする国・地域

原則として全ての国・地域※を対象とします。

※1 2026年度はアジア、アフリカ、中東、中南米、島しょ国など、148カ国・地域が対象

※2 相補的年間交流コース（Dコース）はインド・アフリカ諸国のみ対象

3. 対象とする分野・テーマ

科学技術（自然科学および人文・社会科学）分野の交流全体を対象とします。

4. 一般公募プログラム

交流計画の目的や内容に応じて、科学技術体験コース（Aコース）、共同研究活動コース（Bコース）、科学技術研修コース（Cコース）、相補的年間交流コース（Dコース）から選択します。

(1) 科学技術体験コース（Aコース）

日本の先端的な科学技術に触れる機会と日本の研究者・学生などとの交流体験を通して、科学技術分野における継続的な交流を促進する活動を対象とします。

- ・滞在期間：原則として上限7日間
- ・招へい人数（引率者を含む）：送出し機関数に関わらず8名以下

(2) 共同研究活動コース（Bコース）

国際共同研究のテーマもしくは計画の策定、予備的な実験などの共同研究を開始する活動、あるいは具体的な共同研究に参加する活動を対象とします。

- ・滞在期間：原則として上限21日間
- ・招へい人数（引率者を含む）：送出し機関数に関わらず8名以下

(3) 科学技術研修コース (Cコース)

送出し国・地域のニーズあるいは地球規模課題の解決に資する科学技術に関する具体的な技術・能力の習得機会を提供する活動を対象とします。

- ・ 滞在期間：原則として上限 10 日間
- ・ 招へい人数（引率者を含む）：1 機関から招へいする場合は 8 名以下

複数の機関から招へいする場合は 12 名以下

(4) 相補的年間交流コース (Dコース)

インド・アフリカ諸国を対象として、相互交流（派遣、招へい）を支援することにより、次世代の優秀な青少年を育成するとともに、日本とインド・アフリカ諸国の人・機関間の関係を強化して、頭脳循環に資する活動への深化と交流の継続につながる活動を対象とします。

- ・ 交流期間：最長 1 年間（派遣・招へい期間は最長 90 日/人）
- ・ 招へい・派遣人数（引率者を含む）：交流機関数に関わらず 10 名以下

5. 招へい者・派遣者の要件

対象は、高校生、大学生、大学院生、ポストドクター、教員など※です。招へいの場合は原則として日本に初めて滞在する 40 歳以下の方を対象とします。

※相補的年間交流コースの場合、渡航経験は問いません。

※相補的年間交流コースの場合、高校生は対象外

6. その他

ウェブサイトや Facebook、X、Instagram を通じて、さくらサイエンスプログラムの最新情報を発信しています。また、ウェブサイトに掲載の「活動レポート」については、過去に採択した交流計画に関し、受入れ機関や招へい国・地域、招へい者所属機関の属性（大学・高校・高専など）、コース名を入力することで簡単に報告を検索できます。ぜひご覧ください。

- ・ ウェブサイト : <https://ssp.jst.go.jp/>
- ・ Facebook : <https://www.facebook.com/sspjapan>
- ・ X : https://x.com/ssp_kouhou
- ・ Instagram : https://www.instagram.com/sakura_science_official/

以上